

# トイ ライブラリー視察ツアー 報告書 2015

## タイ・ラオスの子どもたち

この度は、タイ・ラオスの子どもたちをご訪問下さり有難うございます。

私たちアジアの女性と子どもネットワーク（AWC）は、1996年の設立以来20年近くタイ、ミャンマー、カンボジア、ラオスなどの国の貧困地域で、教育を受けられない子どもたちや、AIDS孤児、ストリートチルドレンなどへの支援活動を続けております。

近年、アジアは大きく変化しました。都市に人々が移動し巨大都市を作り上げる一方で地方都市は取り残されています。特に山間部ではこれまでの自給自足の暮らしが成り立たず、出稼ぎや日雇いなどの労働で暮らしている人々がほとんどです。大都市に移り住んだ人々もスラムでの暮らしを余儀なくされており、HIV、麻薬、都市犯罪等々の問題が人々の暮らしを圧迫しています。その影響は子どもたちに顕著にあらわれています。

子どもは生まれるところを選ぶことは出来ないのですから、子どもたちが少しでも良い人生を歩いていけるようにと、私たちはこれまで学校建設、AIDS孤児支援などを続けてきました。

昨年度より、おもちゃ図書館財団のご協力でタイの学校や子どもたちの施設5か所、ラオスの6校の小学校におもちゃを届けることができました。自宅にはほとんどおもちゃを持っていない子どもが多いので、子どもたちは大喜びで遊んでいます。おもちゃには創造性や協調性を養う大きな力があります。子どもたちを取り巻く環境がまた一歩良い状況に近づいたことに心から感謝申し上げます。

アジアの女性と子どもネットワーク  
代表 マリ・クリスティーン



ラオス パクカン小学校の子どもと



歓迎の歌を歌う子どもたち

## アーサーパッターデック財団 子どもの家

アーサーパッターデック財団は、ストリートチルドレンの保護施設として設立、18年活動を続けている。チェンマイ市内には、山岳民族やミャンマーなどから国境を越えて移住してきた人たちが住むスラムがいくつかある。スラムの住人の中には国籍を持たない人もおり、日雇い労働や性産業などで働かざるを得ないような状況である。子どもたちへの影響も大きく、小さな時から花売りをしたり、物乞いをする子どもも多い。ストリートチルドレンは、大人の保護を受けられないために、麻薬、人身売買、HIVなどに巻き込まれるリスクが高くなる。中にはほとんど学校には行かず、ゲームセンターなどで寝泊まりしているような子どもたちもいる。

この団体は子どもたちがストリートで危険な行為をすることを未然に防ぐとともに、彼らが抱えている問題を解決できるように手助けをしている。これらの活動を通じてストリートから救出された子どもたちが「子どもの家」で共同生活をしている。衣食住、医療の支援をし、自然の中で規則正しい生活し、学校に通うようにすることで、心と体の回復ができるように活動をしている。

現在この施設にいるのは7歳から高校生ままで。小学生の子どもたちは、贈呈したおもちゃを早く開けて遊びたいと興味津々だった。おもちゃは心身の回復に大いに役立つと事務局長のアヌチョンさんから感謝の言葉を受けた。



子どもの家で贈呈後の記念写真

## 希望の家 (AIDSで親を失った子どものための施設)

1996年にAIDSで親を失い行くところのない子どもたちのために設立された施設。現在子どもたちは21人。AIDS孤児のみならず、親が麻薬中毒などで子どもの養育ができないような状況の家庭の子どもも預かっている。自分のことは自分でできるように指導し、食事や掃除、畑仕事などもみんなで分担し、将来自立した生活ができるように心がけている。

スタッフの1人はここで育ち、奨学金を受けて大学を卒業後、ここで働いている。後輩のために力を注ぎたいと、給料の安いことは気にかけず頑張っているという。

訪問したこの日は日曜日だったので、子どもたちは贈呈後すぐにおもちゃで遊び始めた。大きな子がおもちゃの使い方やゲームのルールなどを説明し、それぞれが自分の興味あるおもちゃで夢中で遊んでいた。

ここでもおもちゃは大歓迎された。おもちゃを通じて、情操教育が出来ることが何より嬉しいと代表のタッサニーさん。



希望の家にて



夢中で遊ぶ子どもたち

## バン・メーランカム スクール

チェンマイ市内から2時間ほど山に入ったところにある山岳民族の村の学校。1998年にアジアの女性と子どもネットワークが校舎建設を実施した。

現在、小学生、中学生を合わせて150人が学んでいる。生徒は全員がカレン族で近隣のいくつかの村から通学している。家庭ではカレン語を話しているため、入学するまでタイ語を話すことができない子どもも多い。約半数の6km以上離れた村の子どもたちは月曜日から金曜日まで学校の寮に寝泊まりしている。

生徒の保護者のほとんどが農業を生業としているが、自給自足できる家庭は少なく、大半は道路工事などの出稼ぎなどに頼っており、生活は楽ではない。自宅におもちゃなどを持っている子どもも少ない。

訪問時、給食の時間に子どもたちの食事の様子を視察した。家庭から持参したごはんに、生徒たちが学校農園で育てた野菜のスープの素朴な献立であるが、美味しそうに食べていた。全員が揃って食べないことについて聞いてみると、給食の食器の破損が多く生徒全員が一堂に会して食事をするのができないという説明を受けた。学校にはそれを補う余裕もないという状況であるため、食器の寄付についての依頼も受けた。

この学校からはおもちゃの贈呈に際して、子どもたちの体力向上に役立つおもちゃが欲しいという要望があり、竹馬や大縄跳びを選定したところとても喜ばれた。「たまいれ」は今後低学年の子どもたちの算数の学習にも活用したいとのことである。

贈呈式終了後は参加者全員で学校の近隣の村を歩き、高床式のカレン族の家を見せてもらった。



バン・メーランカムスクールの子どもたち



給食の時間



村の家

## HOUSE OF LOVE (AIDS孤児院)



子どもたちにおもちゃを贈呈

バプテスト教会の牧師を中心にHIV/AIDSに感染し、帰る家のない人を保護する目的で作られた施設。現在、9歳から23歳までの28人が暮らしている。

この施設の設立時は路上で暮らしているAIDS患者や、HIV感染で村八分にあった女性などが保護されていたため、ここで暮らしている子どものなかには母子感染の子どももいる。

かつて、母子感染でHIV感染した子どもは5歳までは生きられないと言われていたが、この施設ではしっかりとした衛生管理、栄養管理を行っている上、近年の医学の発達により薬が飲みやすくなったり、保険適用が可能になったため、このような状況の子どもたちも高校を卒業し、大学や専門学校に進学している。今年はこちらで暮らしている大学生のうち2名が日本に留学することが決まっているそうである。



まとあてで勝負!

この施設に到着した時は夕方だったためにすでに終了していたが、併設されているデイケアセンターにはチェンマイ市内のスラムなどから親のケアを受けられない3歳から5歳までの山岳民族の子どもが毎日通っており、おもちゃはこれらの子どもたちに活用されることとなる。

## ラオス (ラオス人民民主主義共和国)

5月26日、チェンマイからバンコク経由でラオスに移動した。

ラオスはタイやベトナムと隣接した内陸国で、面積は日本の63%、人口は約700万人。国土の70%が高原や山岳地帯である。

ルアンパパンはメコン川流域に栄えたラムサン王国の古都で人口は6万人。歴史的建造物と街並みが1995年に世界遺産に指定されている。フランス統治時代のコロニアル建築の建物とラオスの伝統的な建物が自然の中で共存する美しいまちである。



ワット・シエントーン

## パクカン小学校

ルアンパパンから車で45分ほどのシエングエン地区にある小学校。小学生53名、幼稚園生44名が学んでいる。低地居住のラオルゥンと中高地居住のラオトゥンの子どもたちで、その多くが貧困家庭である。(ラオスでの貧困家庭とは、一日3食を食べることができない、病気になっても病院に行くことができない等の家庭のことを言う)

ほとんどの村人が農業に従事しているが、ダムや橋等の建設現場へ日雇い労働として働きに出る人もいる。学校が休みになる雨季の間は、子ども達も雑草取り等手伝いをして生活を支えている。

この学校ではおもちゃ贈呈へのお礼として、子どもの保護者たちが手織りしたマフラーを参加者全員に下さった。

訪問した日は、低学年の子どもたちが教室に集まっていた。元気いっぱいな子どもたちと一緒に参加者も遊びに加わり、時間を忘れて楽しい時間を過ごした。



全員でポーズ



フラフープ大好き

## シエングエン小学校

パクカン小学校と同じシエングエン地区にある小学校。小学生42名と幼稚園生32名が学んでいる。

この学校にもラオトゥンとラオルウンの子ども達が通っている。家から学校まで徒歩で15～20分程度とこの辺りでは比較的近いので、お昼休みになると子ども達は自分達の家に戻って家族と一緒に昼ご飯を食べる。家族で過ごす時間を大切にする文化はとても素晴らしいのだが、午後の授業に遅れてくる子が多いという課題もある。先生に怒られないようにそっと教室に入る子どもの姿は微笑ましい。

最近になり、この学校の周辺地域ではダム建設や新しい村ができたことにより、子ども達を取り巻く環境が変わってきている。

贈呈式には村人が大勢集まり、おもちゃの贈呈に対する感謝と、私たちの歓迎の儀式バーシーが行われた。祭壇を取り囲み村人が祈りを捧げ、旅の安全や多幸を祈念する言葉を唱えながら手首に糸を巻く精霊信仰の儀式である。村の人たちの感謝の気持ちが温かく伝わってきた。お祭りのような賑やかさの中で子どもたちの歓迎の踊りも披露された。



傑作ができました



歓迎のバーシーの儀式



歓迎の踊り



最後に記念写真



ノートをプレゼント

### 訪問日程

日時	訪問先
5月24日(日)	アーサーパッターナデック財団「子どもの家」、希望の家
5月25日(月)	バン・メーランカムスクール、HOUSE of LOVE
5月26日(火)	ラオスへの移動日
5月27日(水)	パクカン小学校、シエングエン小学校
5月30日(金)	タイへの移動・帰国



竹馬大好き@「希望の家」